

(1) 1年生の傾向と今後の指導について

教科名	傾向	今後の指導について
国語	<p>ほぼ、県平均と変わらない傾向を見せるが、「関心・意欲・態度」に関して県平均を下回っている。また、「読むこと」に関しては、県平均を上回っているが、「書くこと」や、「知識・理解・技能」は県平均を下回っている。具体的には敬体を常体に直す問題では全員誤答。また、漢字の問題に正答率が著しく低かった。また、など記述の問題の正答率が低く、書くことの指導が必要である。</p>	<p>概ね県平均に準じ、十分満足のレベルに達しているが、まだまだ力を伸ばしていきたい。「関心・意欲・態度」に関する項目が低いので、国語に関心を持ち、意欲的に学習するよう授業の改善が必要である。弱点の克服のためには書くことの機会を増やすこと。語彙を増やしていくため、辞書を活用した授業の実践に取り組んでいきたい。</p>
社会	<p>観点別に見て、「関心・意欲・態度」・「技能・表現」・「知識・理解」が県平均を大きく下回っている。「思考・判断」が県平均をやや上回っている。領域別に見て、「我が国の歴史」・「世界の中の日本」が県平均の正答率を大きく下回っている。また、「思考・判断」を問う問題より、資料から読み取る力である「技能・表現」や「知識・理解」を問う問題の正答率が低かった。小学校での学習内容を忘れていた傾向がある。</p>	<p>県平均と比較して、「知識・理解」が大幅に下回っているので、普段の授業において、教科書の音読や重要語句には線を引かせるなどの作業を行い、授業内容の理解のため復習を重点的に行うよう指導していく必要がある。また、資料を読み取る力を養うため、写真やグラフなどを使用した読み取りの練習をする必要がある。「関心・意欲・態度」が下回っていたが、身近な事象と関連させて「関心・意欲・態度」の向上を図る必要がある。</p>
数学	<p>観点別にみて、「表現・処理」は十分達成している。「見方や考え方」・「知識・理解」は県平均をやや上回っており、おおむね達成している。領域別にみてすべての領域で概ね達成している。「数と計算」・「図形」に関しては十分達成にわずかに及ばなかった。基礎的な知識・理解はあるが、持っている知識を利用したり、活用したりする力が不足していると考えられる。</p>	<p>数学の基礎的な計算力は身につけているが、それを活用する力が不足しているため、問題の本質を見抜くために、しっかりと問題文を読み、理解し、何を問われ、答えればよいのかを考えさせる。問題から式や表、グラフの活用ができるように心掛ける。</p>
理科	<p>観点別に見て、「関心・意欲・態度」と「技能・表現」が県平均を大きく下回っている。「知識・理解」と「思考・判断」は、県平均をやや下回っている。領域別に見て、「生物とその環境」において県平均の正答率を下回っており、実験・観察の結果を分析する力したり、文章を読み取る力、及び表現する能力を問う問題の正答率が特に低い傾向が見られた。</p>	<p>基礎・基本な用語などを定着させるために、授業の終わりに理科ノートの整理に取り組んでいる。また、実験・観察では、目的をしっかりと意識させ、結果を予想し、実験結果と比較させるようにしている。授業で学習する内容と、生徒の身の回りの事物・現象と関連させて考えるように指導している。</p>

(2) 1年生の学習・生活に関する調査結果の特徴的な傾向について

本校生徒の学習や生活の特徴	<p>(良い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が楽しいと思っている生徒がとても多い。</li> <li>・勉強が好きと思っている生徒が多い。</li> <li>・学校での勉強は、大人になってから役に立つと思っている生徒がとても多い。</li> <li>・1年生全員が学校で落ち着いて勉強することができていると思っている。</li> <li>・平日に2時間以上勉強する生徒が少ない。</li> <li>・全員が宿題には取り組んでいる。</li> <li>・予習・復習をすると答えた生徒が多い。</li> <li>・世の中の出来事や情報を得るために、テレビのニュース番組を見ると答えた生徒が多い。</li> <li>・一人であるより、友達といった方が楽しいと思っている生徒が多い。</li> <li>・大人になってからやってみいたい仕事があると答えた生徒が多い。</li> </ul>
成績が良い生徒の生活と学力との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が楽しいと思っている生徒の方がよい結果になっている。</li> <li>・授業の中で分からないことがあったら自分で調べる生徒が良い結果になっている。</li> <li>・月曜から金曜に、授業以外で学習を毎日2時間以上している生徒が良い結果になっている。</li> <li>・土日や休日に授業以外で学習を2時間以上している生徒が良い結果になっている。</li> <li>・試験があれば、それに備えて勉強すると答えた生徒が良い結果になっている。</li> <li>・予習・復習をすると答えた生徒がよい結果になっている。</li> </ul>

(3) 2年生の傾向と今後の指導について

教科名	傾向	今後の指導について
国語	「話す・聞く」の項目では県平均に近く、十分達成の領域であるが、全体的には県平均を下回っている。特に「書くこと」に関しては、県平均を大きく下回っている。具体的には、体言止めや接続後といった用語の理解を問う問題や、「書くこと」の力を問う問題、また語句、語彙の力を問う問題の正解率が低かった。	特に問題となるのは、語句・語彙の力が低いということである。語彙の力をつけさせるため、名作や新聞の社説の視写等の指導が必要であると考える。また、辞書を有効に活用するような授業の組み立ても必要であると考える。 授業の中に「書くこと」を取り入れて、書くことに対する抵抗をなくしていくことも必要なことであると考える。特に自分の考えを文章で伝える機会を多く取っている。
社会	4観点全てにおいて、県平均の正答率を下回っていた。特に「関心・意欲・態度」・「思考・判断」・「知識・理解」が大きく下回っている。領域別に見ると、地理的分野の「世界の地域構成」、「身近な地域」や歴史的分野での「古代までの日本」、「近世の日本」で大きく下回っていた。基礎・基本となる「知識・理解」を問う問題についての正答率が低い。そのため、資料から読み取る力や思考力・判断力を問う問題	授業において、世界の地図を掲示し、生徒自身に視覚的に捉えさせ、地図の見方や国の位置関係などを再度確認する必要がある。また、基礎・基本の定着を図るため、授業において教科書の音読や重要な箇所への線引き、重要語句の整理や小テストなどを実施している。さらに、学習内容の定着を図るため、復習を重点的に行うよう指導する。さらに、資料(グラフ・写真)から読み取る力や思考力・判断力を問う発問や問題など教師側で
数学	観点別において、「見方や考え方」・「表現処理」は県平均を下回っている。「知識・理解」はおおむね達成している。領域別では「数と式」では概ね達成しているが、「図形」・「数量関係」では県平均を下回っている。基礎的な計算問題はできるが、文章から読み取ったり、思考力を問われたりする問題が苦手なようである。	基礎的な数学の計算問題はできるが、応用問題に対応することが難しいため、基礎計算問題の反復をしながら、文章から立式をし、解答を導くことができるように問題の意味をじっくり考えさせたい。また、何を求めなければならぬかを考えさせたい。
理科	4観点すべてにおいて、県平均の正答率を大きく下回っていた。領域別に見ると、「身近な物理現象」と「大地の変化」において、県平均を大きく下回っていた。データをもとに地震波から震源の距離を求めたり、速さを求めたりする問題に対して、誤解答が多く見られた。	基礎・基本な用語などが定着していないので、授業中の用語の強調と授業の終わりでの理科ノートの整理に取り組んでいる。また、実験・観察では、実験前に実験の目的をしっかりと意識させ、結果を予想し、実験結果を記録するように指導している。さらに、授業で学習する内容と、生徒の身の回りの事物・現象と関連させて身近に考えるように指導している。
英語	全体的に、県平均を下回っている。しかし、「聞くこと」は、十分達成の領域で県平均にも近い値である。「聞くこと」の領域の問3(1)だけが唯一、県平均を上回っている。著しく正答率が低いのは、「書くこと」である。英単語の綴り間違い、英文の語順の理解が不十分であった。	やはり、「書くこと」を重点的に指導していきたい。普段からの授業にも「書く」活動を多く取り入れたり、定期的に「書く」ための確認テストを実施していきたい。「書くこと」は、国語の教科とも関係してくる部分があるため、相互に連携を図り、生徒の「書く力」の向上に努める。

(4) 2年生の学習・生活に関する調査結果の特徴的な傾向について

本校生徒の学習や生活の特徴	<p>(良い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が、学校が楽しいと思っている。</li> <li>・ほとんどの生徒が朝食を取っている。</li> <li>・ほとんどの生徒が家族と一緒にいるのが楽しく感じている。</li> <li>・年に数回ほど地域での行事や祭り、ボランティアや体験活動に参加している生徒がいる。</li> <li>・ほとんどの生徒が22:00~23:00までの間に就寝している。</li> </ul> <p>(改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日に1時間以上勉強する生徒が少ない。</li> <li>・宿題があれば宿題をするが、試験勉強をする生徒は少ない。</li> <li>・半分くらいの生徒が、家でテレビやゲームを3時間ぐらいいており、成績も悪くなっている。</li> <li>・毎日、家の手伝いをしている生徒は少ない。</li> <li>・悪いことをすると叱られる生徒が多いが、勉強について話されることは少ない。</li> <li>・将来なりたいと思っている仕事はあるが、自分が就けると感じている生徒は少ない。</li> <li>・学校での勉強が大人になってから役に立たないと思っている生徒もいる。</li> <li>・学校で落ち着いて勉強することができない生徒が多く、成績が悪くなっている。</li> </ul>
成績が良い生徒の生活と学力との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が楽しく、勉強が好きな生徒が良い結果になっている。</li> <li>・授業の中でわからないところがあれば、友人や先生、兄弟に尋ねたり、自分で調べるようにしている生徒が良い結果になっている。</li> <li>・学校の授業以外に、マンガや雑誌を除いて30分以上、平日に読書している生徒が良い結果になっている。</li> <li>・家の手伝いを毎日している生徒が良い結果になっている。</li> <li>・よいことをすると家の人からほめられ、悪いことをすると家の人から厳しく叱られる生徒が良い結果になっている。</li> <li>・学校の授業以外で、平日に1時間以上勉強している生徒が良い結果になっている。</li> <li>・家庭の勉強のしかたでは、宿題以外に予習や復習、興味関心があることを調べたりする生徒が良い結果になっている。</li> <li>・世の中の出来事に関心が深く、進んで情報を集めようとしている生徒が良い結果になっている。</li> </ul>